

五小っ子

平成31年度 学校便り第6号 (6月14日)
(令和元年度)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文



いのち **学校教育目標**
『生命を大切にし、進んで学ぶ
心身ともにたくましい子どもを育成する』
○ やさしさいっぱい ○ かしこさいっぱい ○ たくましさいっぱい
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

出来るようにしてやる

今週は気温も上がらず、明け方は肌寒さを感じる程でした。今日の午後から天候も下り坂のようですが、北部九州の梅雨入りも間もなくでしょうか。

さて、私は子どもたちに機会ある毎にこう伝えています。
『あと少し頑張れば出来るようになる事に挑戦しなさい。』という言葉です。

私たち大人だって、「死にものぐるいで努力しなければ出来るようにならない事」には、なかなか挑戦できません。自分の力に見合った目標であれば、目標達成に向けて努力を継続できるはずで、出来るようにしてあげる事が、子どもたちに自信とやる気を持たせる最も手っ取り早い方法だと思っています。

筑波大学大学院の外山美樹先生は、子どもに自信をつけさせる目標設定のコツを次のように解説されています。

—目標達成できたとき、子どものやる気が高まる!—

学習やスポーツにおいて、子どもに目標を立てさせるのは、モチベーションを高めるためにとても有効な方法です。ただ、目標を立てたからといって、それ自体が子どものモチベーションを高めるわけではありません。自分が立てた目標が達成できたとき初めて、「自分はがんばればできるんだ」という自己肯定感が生まれ、活動へのモチベーションとなるのです。

反対に、目標設定に失敗し、目標を達成することができなければ、自己肯定感が喪失し、モチベーションを高めるどころか、かえって子どもの意欲を低下させる可能性もあります。

子どものやる気高めたいのであれば、子どもが達成できそうな目標を立てることが大切です。小さな子どもは、自分の能力を正しく把握していませんから、自分の能力に見合わない大きな目標を掲げてしまうこともあると思います。その場合は、達成できそうな目標を具体的に提案してあげるようにしましょう。

例えば「プロ野球選手になる」ことが目標なら、「素振りを毎日50回する」「週3回ランニングする」などそのお子さまにとってちょっとがんばればできそうな目標を提案してあげるのです。小さな目標を達成して自信をたくさんつけさせることが、大きな目標を達成させるための第一歩になります。



—目標設定のポイント—

子どもの達成できそうな目標を立てる以外にも目標設定のポイントをいくつかご紹介します。

具体的な数字や期間を入れた目標を立てる

「できるだけたくさん勉強する」「部活をがんばる」というあいまいな目標よりも、「毎日1時間勉強する」「サッカーのリフティングを20回以上できるようになる」といった具体的に明確な目標のほうが望ましいのです。

具体的な数字や期限を明確化した目標設定の方が、どのように頑張れば良いかがわかりやすく、目標を達成できたかどうかの検証もしやすいのです。

できれば複数の目標を立てる

一つの目標だけだと、その目標を達成できなかった時にモチベーションが低下してしまう恐れがあります。できれば複数の目標を立てるとよいでしょう。学習だけでなく、スポーツや生活に関する目標でも構いません。その子の得意な分野の目標を立てると自信をつけさせやすいと思います。何か一つの側面において「自分はできるんだ」という自己肯定感が持てれば、それが徐々に学習など他の活動に対するモチベーションへと広がっていくはずで、

子どもと話し合ったうえで目標設定を



「お母さんに『○○しなさい』と言われたから」といった他律的な理由で目標に取り組んだ子どもよりも、「自分が○○したかったから」という自律的な動機(理由)を持って目標達成に取り組んだ子どもの方が意欲は高いことが、研究から明らかになっています。

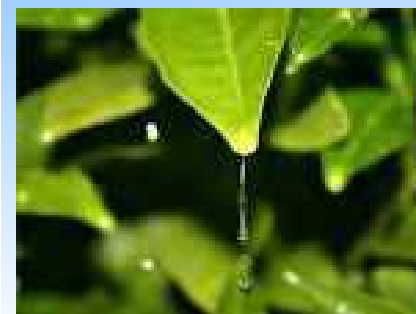
是非、子どもと話し合い、子どもが納得できる目標を立ててほしいですね。目標を達成できたという喜びから、次第に自分から目標を発するようになるはずで、また、目標について親子で話し合う機会はよいコミュニケーションの場にもなりますよ。

如何でしょう。共感できますね。

最後に校長からも一言。

少しでも頑張ってる時は『すごい!!』と大げさに褒める。

困っている時は『だいじょうぶ』と安心させる。重要ポイントですよ。



雨のあと
金子 みすゞ
日かげの葉っぱは
泣きむしだ
ほろりほろりと
泣いてゐる
日向の葉っぱは
笑ひ出す
なみだの痕が
もう乾く
日かげの葉っぱの
泣きむしに
たれかハンカチ
貸してやれ